

れ侍りてなん。皇國の有志はさらなり、たれ人か、彼の君の御爲に、いのちをすてざらん。誠に誠になしきめを見奉るものかなと、その後、ことさら御歸京しくもならせたまふやうに、神かけて祈りまゐらすばかりになん、都のとのにつれづれと待たせたまふらん女君がたの御心さへ、おしはかり奉り、かなしうも、おはれにも、忘るゝひまなく思ひ奉るぞかし。……

純潔なる熱誠と、深厚なる同情とは、溢れんばかりにて、これを表出するに精緻流暢なる文藻を以てし、委曲悲惻の趣致を極め、眞に至文といふべし。されば、この一書は、ただに望東か五卿にまみえし當時の情況を知るべきのみならず、これによりて、望東の人物如何を想見するに餘りありとす。

望東尼が忠誠は、十分に五卿たちを認められぬ。その六十の賀をものせしにつき、三條公より「すべ國の、正しき道をふむ人は、ちとせの坂も、やすくこゆらん」との歌をたまはりけるが、望東は「老が世をちとせとおほせし宮人に、あまる齡をささげまつらむ」と答へまつりぬ。前文と相映發して、餘情掬すべし。

(つゞく)

あづさ弓ひくかずならぬ身ながらも

なもひいる矢はただに一寸ち

(望東尼)

ローランド夫人傳 (つゞく)

鄭越 生補譯

議院内の暴舉忽ちにして市中一般に傳播しければ、ジャコビン黨人は勿論、放逸無頼の暴民一時

に蜂起して所在掠奪を縦にし子女を辱しめ、狼藉至らざるところなし。

かくて五月三十日ギロンド黨員は一同死を決して議院に登る、途上の市人側目耳語して曰

今日こそ彼等の末期なれ、

蓋しジャコピン黨人は、是より先き計を定め、

此の日を以て隠謀決行の日と期したればなり。」

然れども幸に此の日及び翌六月一日は、何事もなく打ち過ぎぬ、正に之れ山風將に襲ひ來らんとして四面先づ寂然たるものか

果然六月二日市中俄に騒然、警鐘頻りに來り、黨人東西に奔馳す。

此の日ジャコピン黨人は武装をなし兇器を携へ、領袖マラーの下に集合す、マラー壇上にあり凛として曰

機熟せり諸君願くは旃を力めよ、

夕景議會開會の劈頭ギロンド黨の首領ランジュ

ネー起立して曰

何の權利に基づきて反對黨は此の如く正義を蹂

躪するか

と慷慨壇を打ちてジャコピン黨の近時を搏撃し言

甚だ痛快を極む、之に於て議場俄に喧擾、ジャコ

ピン黨員先を争ひて反對演説を試みんとす。

此時遅く彼時速く、マラーの率ゐたる一隊、院

内に突入す、紛擾又た紛擾………

紛擾の中何事か可決せられぬ、可決せられたる

は抑何の案ぞや、案に曰

左に列記せられたる議員は、有罪の嫌疑あり直

ちに捕縛せらるべし、

而して列記せられたる議員の氏名二十二、悉くギ

ロンド黨員たるは云ふ迄もなし。

是より先きヴィアードなる無頼者あり、ジャコ

ビン黨員の旨を受けて、ローランド夫人を罪科に

陥れんとし内亂の罪名を以て夫人を告訴す、議院

(當時議院にて國事犯罪人を糾問し宣告したり)即

ち夫人を召喚し式の如く姓名を問ふ、夫人微笑

して曰

ローランド、予はローランドと自稱することを

誇るものなり、何となればローランドとは善良

にして名譽ある人の名稱なればなり

と、此の時院内靜かにして水を打ちたるが如く萬

目悉く夫人の身に集る

既にして審問長問ふて曰

夫人はヴィアードなる者を知り給ふか

夫人曰

彼は二回予に會見を要めたり、予は一度彼に面

會を許したり、其の時予は彼が卑劣なる間隙に

てありしことを看破せり、即ち其の卑劣なる彼

の心性に相當すべき侮辱を彼に加へて速かに退

去せしめたり

と此の他問ふところあれば即ち答ふ、言簡にして

明徹、些少の穩秘なし。

かくてヴィアードの告訴全く譴誣なりしこと明

了なるに至りたれば、審問長は證據不十分の廉を

以て夫人を釋放するの旨を宣告す。

夫人釋放の宣告あるとともに拍手急激の如く院

の外に徹す、蓋しジャコビン黨員は如何にもして

夫人を罪科に陥れ、以て敵黨の一大勢力を挫折せ

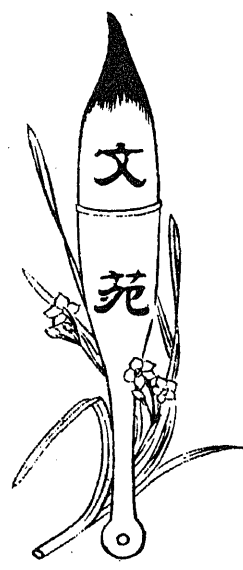
んとし、百方苦肉の策を講じ、竟に夫人を院内に

審問するに至りしことなるに、却て夫人の釋放せ

られたるを喜び、而かも拍手夫人を賛嘆するものは何ぞや、夫人の崇高なるに感じられたればなり、夫人の凜烈たるに威伏したればなり

讀者よ想ひ見よ、必らず夫人を罪科に陥れんとする豫期を以て審問し傍聴せる反對黨人……狂亂せる而かも一點の涙なき鬼の如き石の如き……をして心ならずも無罪を宣告せしめ、吾れ知らず拍手せしむるに至りしといふ夫人の風采が如何に崇高なりしかを又如何に其の意氣凜烈たりしかを、夫人拍手を背に聽なし悠然一揖して院を去る、ロペスピアー目送して曰  
大なる哉

萌え出るも枯るゝもおなじ野邊の草  
いつれか秋に遇はてはつべき



新 樹

中嶋 歌子

梢みな若葉になれる庭のおもに

また色あせぬわか楓かな

寄 山 祝

同 人

高砂の嶋山とほく日のみ旗

かゝやく御代になりにける哉

夏 蝶

徳大寺治子

若葉のみしけるかけをそこはかと

なにゝうかれて蝶のとふらん